

「もしかしてコロナ？」感染者は増加中だが実態は？ この夏、注意したい“紛らわしい”感染症を医師が提言

2025. 07. 30 オリコンニュース



まさかコロナ？ この夏気を付けたい感染症（オリコン）

6月頃から、また感染者が増加しているという新型コロナウイルス感染症。マスクをしている人もめっきり減ったが、感染がゼロになったわけではないのである程度の注意が必要だ。この夏の新型コロナウイルス感染症はどのような症状なのか。紛らわしい症状の感染症は？ 最新情報をクリニックフォア・吉川裕章先生に聞いた。

■完全に収束したわけではないが…、多くのクリニックではPCR検査の実施なし

一時期、猛威をふるった新型コロナウイルス感染症。2023年から一般的な感染症と同様に5類感染症と位置づけられたが、終息したわけではまったくない。症状は、頭痛、喉の痛み、食欲不振、嗅覚障害、疲労感、胸部不快感、胃腸炎、重度の下痢など、風邪に似た症状が特徴。東京都保健医療局の報告によれば、2025年7月時点、東京都内では「NB.1.8.1株」や「XFG株」が主流株となり、感染者数も増加傾向だという。

——現在、クリニックにいらっしゃっている患者さんで新型コロナウイルスの感染者はやはり増加傾向にありますか？

「はい。6月中旬ころから、少しずつ増えてきています」

——新型コロナウイルスは、株によって症状や重症度、感染力が違いますが、今年はどんな特徴があるのでしょうか。

「私見なのですが、基本的に若い人にとっては、もうほとんど風邪と変わらないように思います。熱と喉の痛み、咳や倦怠感が主な症状ですが、今年に限った特徴的な症状があるわけではなく、感染力も特別に強いわけでもありません。すでに多くのクリニックではPCR検査も実施しておらず、主に抗原検査で診断しています」

——PCR検査をするほどでもないぐらい、重症化率は下がっているのでしょうか。

「そうですね、いわゆる上気道感染の一つと捉えられるくらいになりました。味覚や嗅覚の障害が出る方、時おり特に高齢者の方で重症となる患者さんもいらっしゃいますが、多くはありません。ただ、2019年から定期的に流行を繰り返して今も続いているわけですから、流行期間が長いですね。ウイルスは少しずつ弱体化していく性質のものが多いのですが、ここまで長期間、流行を繰り返す感染症はなかなかありません」

——すでに、インフルエンザのようなものになったと考えていいですか？

「そう考えて問題はないと思います」

■これはコロナ？ それとも…、この夏注意したい感染症

——コロナのほか、この夏に流行りそうな感染症を教えてください。

「それこそインフルエンザです。季節外れのように見えますが、この夏もちょうちよく患者さんがいらっしゃいます。あとはヘルパンギーナや百日咳、マイコプラズマ肺炎も見られます。お子さんでは、溶連菌感染症、目に症状が出るアデノウイルス感染症も感染力が高いので注意が必要です」

——昨今はマスクをする人も減り、コロナをはじめ様々な感染症にかかりやすくなっているのではないかと思います。医師の立場からアドバイスはありますか？

「手洗いやマスク、うがいなどの習慣が少しずつ忘れられてきているので、これは続けた方がいいと思います。外出時にアルコール消毒シートなどを持ち歩いておくことも有効だと思います。あとは何よりも、体調が悪い時は、人混みや外食を避けてもらうことが大事ですね。コロナ禍のように過剰に気にしすぎる必要はないと思いますが、感染症にかからないにこしたことはないので留意しておきましょう」

<監修者>

吉川裕章

近畿大学医学部卒業後に京都大学医学部附属病院および関連病院にて臨床研修。大阪医科大学（現大阪医科大学）皮膚科に入局し、関連病院にて勤務。その後、プライマリケアに興味をもち、済生会千里病院総合診療部から大手総合電機メーカー専属産業医、都内での大学病院、訪問診療やプライマリケアクリニックで院長職を経験。現在はクリニックフォアで主に総合内科、皮膚科のプライマリケアを行っている。